

IST OCT 1996



日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒107 港区赤坂 8-4-17

赤坂郵便局私書箱 62 号

編集：JAAGA 事務局

印刷：(財) 防衛弘済会

発足の賦

航空自衛隊は創設以来 40 余年、日米安全保障体制のもとに米空軍と密接に連携して我が国の空の守りの使命を果たして来た。これまでの航空自衛隊の発展と精強性及び更なる精強化は、両軍相互の揺るぎなき信頼関係を基盤としている。

一方、冷戦の終焉は国際関係の随所に不安定要因を生じさせ、我が国将来の安定と繁栄のために、日米関係緊密化の一層の努力が求められている。

この時にあたり、航空自衛隊のOBが空を共に生きた共通の立場を活用し、個人的活動を組織化して、日米相互理解の増進に努め、現役諸君のバックアップとして、良好な日米関係の一端を支え、我が国の安全保障に貢献することは極めて意義深い。

日米エアフォース友好協会の誕生である。

初代会長に大村元航空幕僚長

— 奉仕の精神を忘れずに —



7月5日に開催された設立総会において、初代会長として大村元航空幕僚長が全会一致で推挙された。また副会長には鈴木元航空幕僚長と松村元補給本部長が、理事長には石塚元航空幕僚長がそれぞれ指名された。総会には約 50 名の会員が出席、昨年来中心となって準備調整に当たった鈴木委員による趣旨及び経緯の説明が行われ、次いで石川委員による会則、事業計画、長谷川委員による財務報告等が行われた。

当初の会勢として会員約 200 名、法人約 30 社の参加を得て発足することとなった。大村会長は、就任第一声で、日本及び航空自衛隊への最後の奉公だと思って努力するという所信を述べた。また発足当初の試行錯誤に当たっては、設立の趣旨を守りながら柔軟に運営したいという希望とともに、全会員に対し奉仕の精神をもって尽くすよう要望した。



会長就任挨拶

今回、皆様方のご理解、ご支援を得て、日米エアフォース友好協会を発足させることができました。

ご指名を受けて、私が会長の大役を務めることとなりました。どこまで任を全うし得るか自ら危惧するものではありませんが、全力を尽してやっていきたいと思っておりますので、皆様方のご支援、ご教導をお願いする次第です。

発会にあたって、協会に関して私の考え方を少々述べさせていただきます。

日米安全保障体制が日本にとって重要であることは、論を待ちませんが、最近の世界の歴史の中で、或いは日本とアメリカの相対的な経済力の変化などにつれて、日米間の関係も微妙な変化をしているところは否めない事実であります。

そういう環境のもとにありまして、空を守り、空に生きると言う共通の場を持った私たちが、その共通の場を活用いたしまして、日米両空軍のより一層の友好親善、相互理解、意思疎通等を考え、現役の航空自衛隊員のいろいろな行為を側面から援助することを通じまして、日米の更なる理解、友好に寄与したい。これが本日発足いたしました協会の目的であります。

また、多くの方がご存じの通り、航空自衛隊は四十数年間に亘り、アメリカの空軍と一緒に日本の空を守って参りました。そして、その四十数年間かけて、日本の航空自衛隊が近代的な航空戦力に成長する過程において、物心両面においてアメリカの空軍から強力な支援を賜りましたことに私たちは深い感謝の念を持っております。

そういう感謝の念を持ちました私たち航空自衛隊のOBが相集い、日本とアメリカの空軍のために何かしたい、そういうことがこの会を発足させ

る大きな動機になっております。

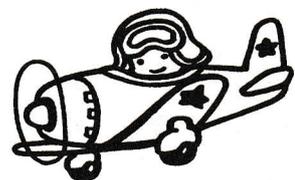
日米関係強化のために、何かしたいという大きな希望、望みを持ってスタートした訳であります。これから何ができるのかも実はよく分かっておりません。

しかしながら私たち会員は、力を合わせて大きな目標と夢に向かって誠心誠意努力するつもりであります。

二つめは確認とお願いであります。それは、この会は、はっきりした目的を持って設立した集団でありまして、仲良しクラブではないという事があります。したがって会員の方々の一人一人は奉仕するという精神を是非持って戴いて、多くの見返りを期待することなく、会の活動に参画をお願いしたいと思っております。その結果、それが会員相互間の親睦に帰したりすることがあれば、それは副産物として大いに結構なことだろうとは思っておりますが、基本的には、我々はボランティアである、そういうつもりで会の運営をお願いしたいと思っております。

何と言っても、発足したばかりの会でございますから、多分に試行錯誤的に会を運営して行かざるを得ないだろうと思っております。多くの方々のご意見を承り、柔軟に対処して行きたいと思っておりますが、設立の趣旨だけは、頑として最後まで守り通して行こうと覚悟を決めております。

会員の皆様方の一層のご支援、ご協力を重ねてお願い致し、発会の挨拶とさせていただきます。





記念祝賀会盛大に

発足総会に引き続き東京プリンスホテルサンフラワーホールで祝賀会が開催された。約150名の参会者の中には会員とともに防衛庁長官、政務次官を始め、施設庁長官、外務省北米局長それに日米ネービー友好協会を代表して吉田会長、統幕議長、空幕長及び多数の現役幹部に加え在日米空軍司令官以下在日主要幹部の方々が見られた。英語、日本語を駆使しての交流も盛んに行われ、また現役OBの旧交を温める場ともなり、余韻は深夜まで残った。

臼井防衛庁長官 祝辞



一言ご挨拶申し上げます。
はじめに、本日は記念すべき日米エアフォース友好協会の発会祝賀会にお招きを戴きまして大変ありがとうございます

ございました。こうした時期に、長官として出席できます私、そしてエバハート司令官も着任早々こうした席にお出掛け戴いたわけで、私ども大変幸せであると思っております。

長年、日本と米国との空の守りを担ってこられた方々のご努力により、日米エアフォース友好協会が発足し、この様に盛大な懇親の宴が開催されますことを心からお喜び申し上げます。

さて、この機会をお借りいたしまして、私の考えているところを少し申し述べさせて戴きたいと思います。

私は、わが国と米国との関係は、まさに世界の最も重要な二国間関係でありまして、中でも、その中核である日米安全保障体制は、本年四月に日米安全保障共同宣言において確認された通り、わが国の安全にとって極めて重要であるのみならず、アジア太平洋地域における平和と安定のためにも、大きな礎であると考えております。

先般、日米防衛協力のための指針の見直しが始されましたが、私はこの機会を生かし、両国のパートナーシップを二十一世紀に向けて、更に前進させて行くことが重要であると考えております。そして、この友好協力関係の根幹となるものは、わが国自衛隊と米軍との揺るぎない信頼関係にあると言えます。特に米空軍と航空自衛隊とは、航空自衛隊が創設されて以来、常に密接に連携し、共に日本の空を守ってきました。この様な関係、経験を通じ航空自衛隊と米空軍が、長年手を携えて培って参りました Air Force to Air Force の友好的な関係は、言わば日本の大空に掛ける橋であると思います。

A friend in need is a friend indeed. これは日本流に言いますと「苦しい時の友が真の友」、こういう風に訳すそうなのですが、この不透明な時代の中で、このような掛け替えのない絆をより強固なものとするべく、ここに日米両エアフォースのOBの皆様方が中心となって本協会が設立されることの意義は大変大きなものがあると考えております。

最後に今後の皆様方のご活躍とご発展を祈念するとともに、その設立の趣旨に対して深い敬意と感謝の意を申し上げて私の挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

エバハート第五空軍司令官祝辞 (Ms. Magie の通訳による)

白井長官、また、ゼネラル大村、私、個人的に申しましてこの歴史的な機会にご一緒させて戴きますことは、大変な名誉でございます。



また私はここで、米空軍、太平洋空軍、並びに在日米軍からの祝意を皆様方にお伝えしたいと思います。

私の前任者でありますデービス元在日米軍司令官、並びにマイヤーズ前在日米軍司令官ともにこの会が発足するという事に関しまして、大変に心強く思われ、そしてまた、一緒に仕事をさせて戴いたところから、彼等の方からの祝意をお伝えしたいと存じます。

将来におきまして、この JAAGA がなし遂げられるであろうことにつきまして、評価を間違わないようお願いしたいと思います。

ちょうど四十年前に、私どものいわゆる空軍協会を通じまして、私どもと共に訓練をし、そして共に仕事をして、そしてこの四十年がたち、今日に至ったところであります。

私どもの成功というのは、いま日米両国の空軍の力を見ていただき、また、各軍種を見て戴ければ、どの様な成果を挙げたかと言うことに関しては、一目瞭然と思われま。

そして、四十年先にこの日を、いわゆる発足の日としてまた祝賀をされる時に、その四十年の間にいかなる発展を遂げたかと言うことに対し驚

かれるであろうというように思います。

ご承知のように、米空軍の方の空軍協会も今年五十年の歴史を迎えます。そういうところから、私はかつての空軍参謀総長が申されました言葉の中から二つほど抜粋してご紹介したいと思います。というのは、彼等の言葉が、この会の発足に当たりまして適当であると思われるからであります。

この友好協会というものは、アーノルド大将の言葉によりますと、退官されたそれぞれの軍人諸氏の拠り所とするような場所を提供すると共に、またそして、そのような組織を通じて、空軍としての素晴らしい運用ができるような組織を提供するという事を望んだのであります。

そして、スペッツ元米空軍参謀総長が申されましたことと致しまして、空軍にとって、国民からの支援は、効果的に空軍力を動かすに当たって、産業界、航空界また空軍隊員からの支援と同様に不可欠であるというふうに申されました。

私ども米空軍といたしましても、いかなる組織を通じてでも今後とも緊密なる関係を保って行く上において、即ち、空軍と空軍の間、また各軍種の間で更にひいては日米両国の間で今よりも緊密に提携して行けることができるのであるならば、そのような組織というものは我々と致しましては歓迎するわけで、この JAAGA こそ、その様な機会を提供するものと思います。どうもありがとうございました。



航空幕僚長祝辞



I think it's easy for Japanese people to understand my Japanese English.

皆さん今晚は。Ladies and gentlemen, I'm very glad to be invited to this opening ceremony of JAAGA, Japan America Airforce Goodwill Association, tonight.. First of all, I would like to express my heartiest respect to the persons

who have made efforts toward establishment of the association.

The world has been changing drastically and the national defense program outline was adopted last year under this circumstances.

Also after the Japan U. S. summit meeting held in last April. The two countries are studying new structure of defense cooperations.

In this situations, the relation of JASDF and USAF will become more significant extent. I am then so impressed with this timely inauguration of the associations at particular time. We, uniform people will be encouraged to keep close partnership over great importance by the existence of JAAGA. We hope the association will broaden to a great extent.

乾杯の挨拶 日米ネービー友好協会 吉田会長

只今ご紹介戴きました日米ネービー友好協会の者は、五年前に発足以来、今日の、この日米エアフォース友好協会の一日も早



くできることを念願しまして、同じ会社にいます鈴木元空幕長ともいろいろ話してきたのでございます。

これからは日米エアフォース友好協会、日米ネービー友好協会、私はいろいろと話すときに、間違

えるんじゃないかと実は心配する程でございます。

しかし、先程ゼネラル鈴木に聞きましたら、JAAGA, JAGUAR ですか、われわれは JAN AFA でありまして、どうも JAN AFA の方が響きが弱いなと思ひまして……。

いずれにしても、今後、この二つのアソシエーションは手を取り合って、日米同盟の一層の強化のために、日米の現役を助けて頑張りたいと思います。

それでは、日米エアフォース友好協会の、揚々たる前途を祝して杯をあげたいと思います。ご唱和ください。乾杯！



「太平洋空軍司令官ローバー大将から大村会長に寄せられた祝辞」

General Hitoshi Ohmura
President
Japan-America Air Force Goodwill
Association

Dear General Ohmura

Please accept my heartiest congratulations on your inaugural meeting of the Japan-America Air Force Goodwill Association. I am delighted that you and your colleagues initiated such an organization. The Air Forces of our two nations have worked closely together for more than 40 years and have developed a deep appreciation for each other's capabilities.

I salute your effort to strengthen the understanding between our two Air Forces to life the morale of the member of the U.S. forces in Japan. We open our doors to your community leaders so they may broaden their understanding of us by visiting U.S. forces in their workplaces. I extend my support to you as you undertake this noble mission.

Sincerely

「米空軍協会スミス会長から大村会長に寄せられた祝辞」

Air Force Association

1501 Lee Highway, Arlington, Virginia 22209-1198 (703) 247-5800
An Independent Non Profit Aerospace Organization

R.E.Smith
President

July 5, 1996

To the members of the Japan-American Air Force Goodwill Association

On behalf of the U.S. Air Force Association. I wish to express our sincere congratulations as you inaugurate the Japan-America Air Force Goodwill Association.

Your goals of deepening understanding between the air forces of our two nations and promoting grass-roots support of the U.S.-Japan security relationship are worthy ones.

In a world of uncertain and unpredictable threats to peace, the U.S.-Japan Mutual Cooperation and Security Treaty continues to play a significant role in maintaining global security. Beyond our military cooperation, we also value the friendship between our countries and peoples.

We are proud to have Air Force Association chapter in Tokyo and hope that our two organizations will be able to work together to further understanding of the important role airpower plays in international security.

Our 170,000 members wish you great success. I am sure that our two organizations will create the same kind of bond that currently exists between the Japan Air Self Defense Force and the United States Air Force.

Sincerely,

平成 8 年度事業計画

(抜 粋)

1. 平成 8 年度の事業運営方針

設立初年度という実情に鑑み、広く各方面に協会設立の趣旨を広報し、数多くの個人・団体の参加を得る努力を継続するとともに、関係方面との連携を密にし協会の活動態勢を確立・強化する。

併せて、体制・資金等の実態を考慮し、その範囲において協会設立の趣旨に相応しい事業を厳選して実施する。

また、次年度以降の活動を更に有意義なものにするため、将来の在るべき姿等長期的展望を重視した検討を継続する。

2. 実施実業等の概要

(1) 米空軍基地訪問

* 訪問先

三沢基地、横田基地、嘉手納基地

* 実施事項

米空軍将兵の激励、協会設立の広報、米側の状況把握及び要望の確認等

(2) 日米共同訓練における参加米空軍将兵の激励等

* 訪問先

訓練のため米空軍が展開する航空自衛隊基地（築城基地及び新田原基地）

* 実施事項

参加米空軍将兵の激励等

(3) 米軍基地等の研修

* 訪問先

横田基地、嘉手納基地等

* 実施事項

○ 米空軍保有機等の研修

○ 基地施設等の研修

○ 懇談・激励等

(4) 米空軍基地所在地における支部（仮称）結成

(5) 会員名簿の作成・配布

(6) 会報の発行

(7) 広報活動

(8) 将来の事業等の検討

* 訪米視察団の派遣の要否・意義等の調査・検討及び AFA との調整

* その他新たな事業案の検討

* 協会の体制（態勢）・規模等強化にかかる検討

(9) 定例会議等

—— 発足後の活動 (米軍基地訪問) ——

日米エアフォース友好協会の趣旨について在日米空軍部隊指揮官への説明と意見交換並びに激励のため会長等による三沢、嘉手納、横田の3基地訪問が次のとおり行われた。

去る8月16日、大村会長は大橋理事とともに三沢基地の第35航空団司令ヘスター准将及び副司令スナイダー大佐を訪問、続く27日には松村副会長と若江理事が嘉手納の第18航空団司令ベーカー准将及び飛行群司令バンデットリー大佐を訪問、9月6日には石塚理事長と石川(武)大橋両理事が横田基地の第374航空団司令ラフォンテーヌ大佐及び副司令キング大佐をそれぞれ訪問して表敬し、昼食会を含めた懇談と意見交換を行った。

この席上、会長等からそれぞれの団司令に対し当協会から米軍将兵への激励品が贈られ、各団司令からは丁重な謝辞が述べられた。会食に際して三沢では竹河内北空司令官と林3空団司令が、嘉手納では

内山南混団幕僚長と称寝83空副司令が、また横田では岡村共同訓練調整官がそれぞれ同席し、和やかな雰囲気の中で日米相互理解の重要性や米空軍協会活動状況について話の花が咲いた。米軍側は一様に当協会に対する期待感を表明し、当協会について日米共同訓練や基地航空祭等のイベントの際に参加者に紹介したり、基地新聞に掲載する等の積極的なPRと今後の活動に対する具体的な意見と協力が申し出られ、この期待に添うための責任の重さを一同ひしひしと感じたものであった。

また9月8日に行われた日米共催による三沢基地航空祭には、松村副会長と石川(吉)松井両理事が参加、前夜祭では交歓を含み交流の実を上げた。

一方嘉手納基地においては基地新聞「SHOGUN」最新号の紙上で既に当協会の発足が紹介され、また三沢、横田基地の新聞紙上にも近日紹介記事が掲載される予定である。



三 沢 基 地



那 覇 基 地

入 会 御 案 内

日米両空軍のより一層の友好親善、相互理解のため、現役のいろいろな活動を側面から支援しようという本会への、一人でも多くの参加をお待ちしています。入会についての連絡は次のとおりです。

- [郵便] 〒107 港区赤坂8-4-17 赤坂郵便局私書箱第62号
日米エアフォース友好協会 会員担当行
- [FAX] 03-3780-2945 石母田 治 (日本航空電子工業)
- [電話] 03-3780-2961 同 上
- 03-3489-1120 菅原 淳 (東京航空計器)
- 03-3507-9253 齊藤 嘉夫 (日本生命)
- 03-3639-9814 工藤 公光 (丸文)